

プレスリリース
2025年
12月17日

関係各位
全6枚

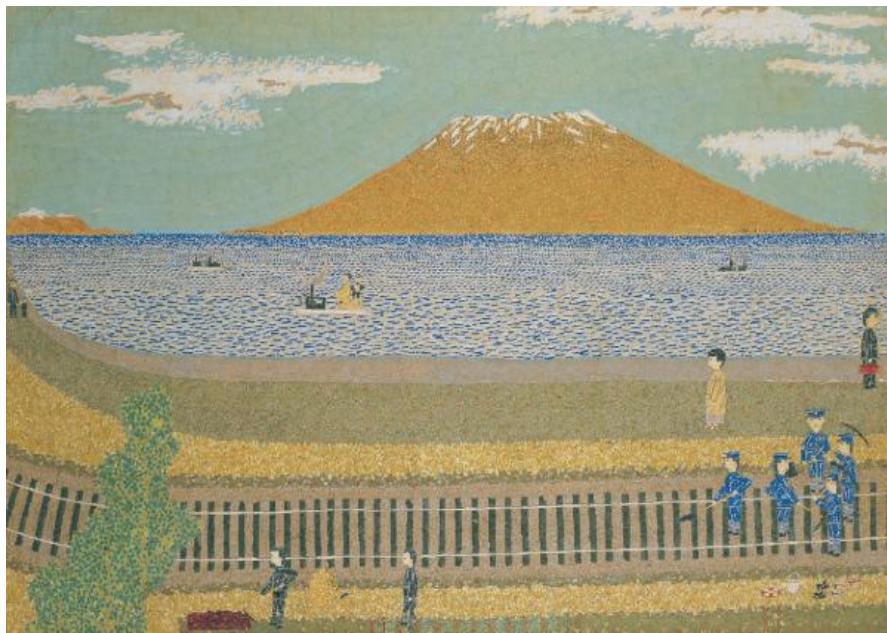


企画展開催のお知らせ

生誕100年 山下清展 百年目の大回想

2026年2月14日（土）－4月5日（日）

放浪の天才画家・山下清 生誕100年を記念した大回顧展
長崎会場限定作品を含む約190点でたどる、創作の全貌



①《桜島》1954年 貼絵 ©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

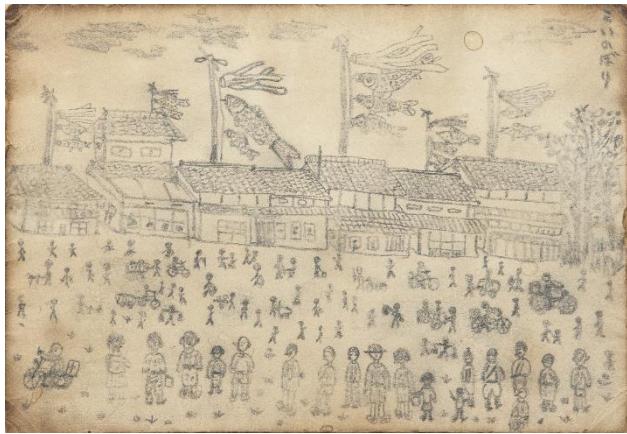
「放浪の天才画家」と称された画家・山下清（1922-1971）。山下は驚異的な記憶力によって、旅先で目にした風景を細部に至るまで思い出すことができました。細かくちぎった色紙を貼り重ねていく貼絵の技法を駆使して生み出される彼独自の風景画は、今なお多くの人々から愛されつづけています。

2022年に生誕100年を迎えたことを記念して開催する本展では、《桜島》など山下の代表的な貼絵作品はもちろん、幼少期の鉛筆画から遺作となった「東海道五十三次」シリーズの一部に至るまで、油彩、水彩画、ペン画、陶磁器の絵付けなど、多彩な作品の数々を紹介します。独特的色彩感覚、温かみのある作風といった特色は共通しているものの、多様な表現は山下芸術の新たな側面に気づかせてくれるはずです。加えて蔵書やリュックサック、浴衣といった関連資料も展示し、山下清の生涯と芸術をさまざまな角度から振り返ります。本展は約190点の作品・資料で構成される、まさしく山下清展の「決定版」というべき大回顧展です。2022年から全国を巡回してきた本展ですが、ここ長崎が最終会場となります。ぜひご来場ください。

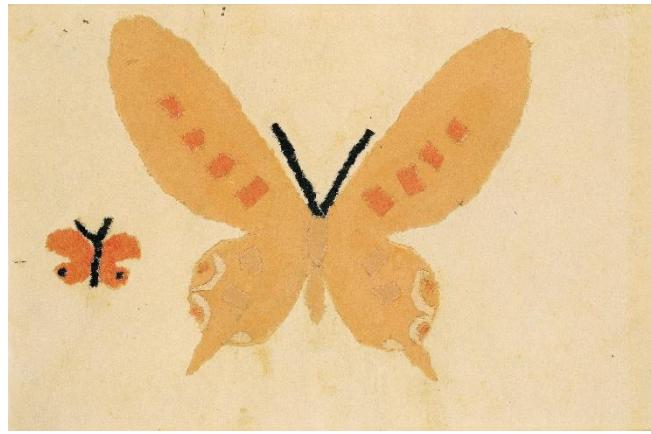
■展示構成

第1章 山下清の誕生—昆虫そして絵との出会い

1922(大正11)年、浅草に生まれた大橋清。彼こそ、のちに多くの人々に愛される画家となる「山下清」です。大病によって後遺症を抱えることとなった清の幼少期は孤独で、彼の楽しみは虫捕りや絵を描くことでした。そして1934(昭和9)年に入園した養護施設「八幡学園」における「ちぎり絵」との出会いが、清の画家としての才覚を花開かせてゆきます。



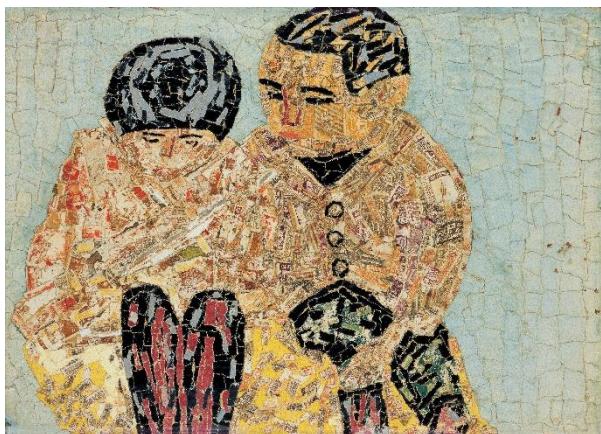
②《こいのぼり》(大橋清) 1930-1932年頃 鉛筆画
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025



③《蝶々》1934年 貼絵
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

第2章 学園生活と放浪への旅立ち

学園で出会った「ちぎり絵」をベースにテクニックを進化させ、独自の「貼絵」の手法を確立した清でしたが、18歳を迎えた1940(昭和15)年、突如として学園から姿を消しました。以降清は、日本各地を思うままに巡る「放浪」の旅を10年以上にわたって繰り返します。清はときおり家や学園に戻り、驚異的な記憶力をもって、旅先で目にした風景を貼絵として描き出しました。この放浪の日々のなかで、《桜島》や《長岡の花火》といった名作が生み出されています。



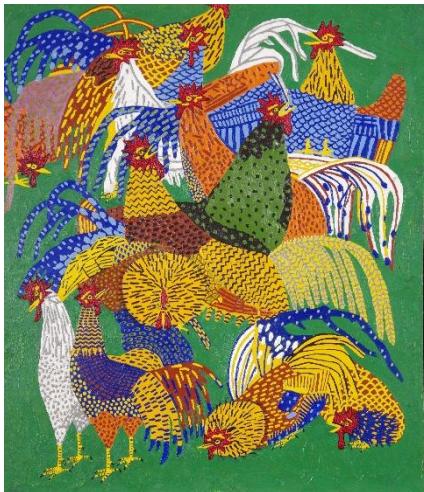
④《ともだち》1938年 貼絵
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025



⑤《長岡の花火》1950年 貼絵
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

第3章 画家・山下清のはじまり—多彩な芸術への試み

1956（昭和31）年、「東京の大丸」（現：大丸松坂屋百貨店）で清にとってはじめての大規模な展覧会が開催されました。本展は26日間で80万人が来場するなど大盛況をみせ、その後も全国各地で次々と個展が開かれるなど、日本列島は「山下清ブーム」に沸きます。こうしたなか、画家としての意識を高めてゆく清は、油性マジックペンを用いたペン画や油彩など、代名詞である貼絵のみならずさまざま技法に取り組み、創作の幅を広げてゆきます。



⑥《群鶏》1960年 油彩
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025



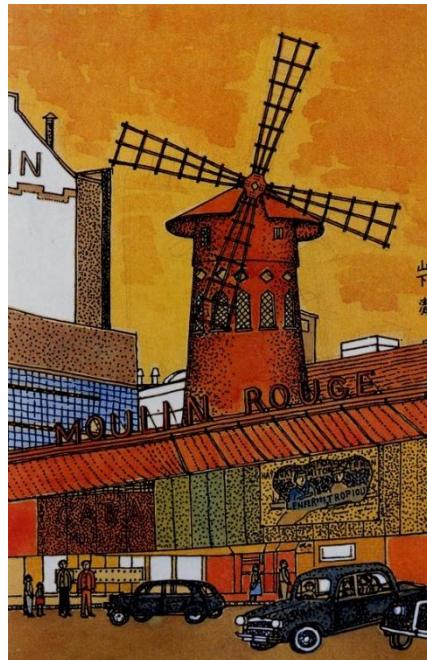
⑦《お蝶夫人屋敷》1956年 ペン画
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

第4章 ヨーロッパにて—清がみた風景

1961（昭和36）年、清は自身にとってはじめてのヨーロッパを中心とした海外諸国をめぐる旅に出かけました。約40日間におよぶ旅のなかで、清は20点余りのスケッチを描き上げており、これらは帰国後、貼絵やペン画、水彩画として結実していきます。この時期に制作された作品では、従来と比較して、より実景にせまる遠近感をもつ構図やきわめて細密な貼絵による色彩表現が確認でき、清の技術の到達点が示されています。



⑧《ロンドンのタワーブリッジ》1965年 貼絵
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025



⑨《パリのムーランルージュ》1961年 水彩画
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

第5章 円熟期の創作活動

1950年代半ば以降、各地で開催される個展にあわせて日本全国を訪れる清は、その土地の窯元を訪れ、陶磁器の絵付けを行いました。のびやかな造形と色彩による陶磁器の絵付けはペン画とともに、晩年の清が中心的に取り組んだものです。

1965（昭和40）年、「東海道五十三次」シリーズを構想した清はおよそ4年をかけて取材を重ね、その成果として生み出された55点からなるペン画による「東海道五十三次」シリーズが清の遺作となりました。本展では、これらペン画をもとに制作された版画作品を通して、最晩年の創作にせまります。



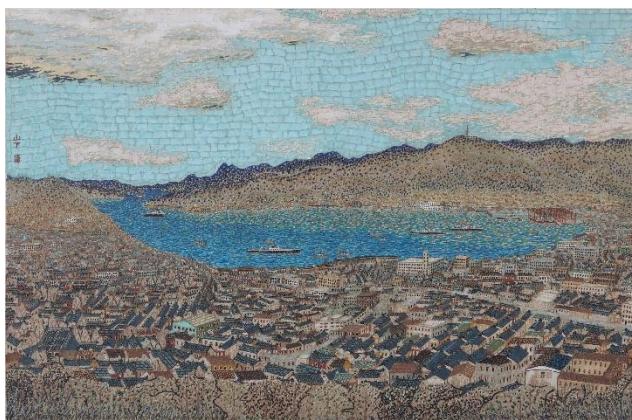
⑩ 《花もも（九谷焼）》 1956年 色絵蓋物
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025



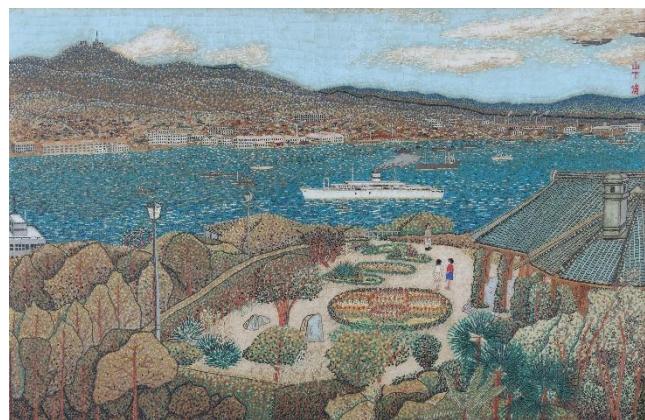
⑪ 《東海道五十三次・富士（吉原）》制作年不詳 版画
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2025

■特別出品

株式会社十八親和銀行が所蔵する《長崎の風景》および《長崎の景色》を長崎会場のみ特別出品します。1963（昭和38）年に制作されたこの2点は、清の熟達したテクニックを味わうことのできる、晩年の代表作に数えられる作品です。また本展出品作である《グラバー邸》や《お蝶夫人屋敷》とあわせて鑑賞することで、長崎ゆかりのイメージを通して、山下清芸術の展開をお楽しみいただけます。



⑫ 《長崎の風景》 1963年 貼絵 十八親和銀行蔵
©Kiyoshi Yamashita 2025



⑬ 《長崎の景色》 1963年 貼絵 十八親和銀行蔵
©Kiyoshi Yamashita 2025

■関連企画

①講演会「家族が語る山下清」

日 時 | 2026年2月14日（土）14:00－（13:30開場）

会 場 | ホール

講 師 | 山下 浩氏（山下清作品管理事務所代表、山下清の甥）

定 員 | 100名（当日受付・先着順）

参加費 | 無料（要本展観覧券）

②ヒロスケさんと山下清を巡るツアー

ガイド役として長崎の町歩きに詳しいヒロスケさんをお迎えし、担当学芸員とともに、山下清の作品をテーマに旧グラバー住宅から長崎県美術館までお話を聞きながら歩くツアーです。美術館到着後は展示室にて、学芸員によるギャラリートークをお楽しみください。

日 時 | 2026年3月 7日（土）①14:00－16:30

3月 15日（日）②10:00－12:30 ③14:00－16:30

ガ イ ド | 山口広助氏（長崎の歴史風俗研究家）

定 員 | 各回 20名（事前申込・抽選制）

参 加 費 | 無料（要本展観覧券）※別途グラバー園入園料

申込締切 | 2026年2月1日（日）

③障がいのある方のためのゆったり鑑賞アワー

朝の美術館で、家族でゆったり、一人でじっくり、おだやかな時間を過ごしてみませんか？

日 時 | 2026年2月28日（土）9:00－10:00

対 象 | 障がいのある方とその介護者・家族

定 員 | 30名（事前申込・抽選制）

参 加 費 | 無料

申込締切 | 2026年1月25日（日）

協 贊 | 株式会社 西海建設

※②および③の申込については、長崎県美術館ウェブサイト内「各種申込」のページをご覧ください。

「各種申込」URL <https://www.nagasaki-museum.jp/request>

| 招 | 待 | 券 |

本展をご紹介いただける場合に限り、読者・視聴者プレゼント用招待券（最大10組20名様まで）をご用意しています。ご利用を希望される場合は、当館広報までお問い合わせください。

広報用画像のご提供について

本リリースに掲載している画像①～⑯を広報用にご用意しています。ご利用を希望される場合は、媒体名、発行日、ご担当者名、連絡先、ご希望の画像番号を記載の上、長崎県美術館広報宛にFAXまたはメールにてご連絡ください。

【画像使用の注意事項】

※画像の使用は、本展をご紹介していただける場合に限ります。

※掲載にあたっては事前校正が必要です。ご依頼はお早めにお願いいたします。

※画像のキャプション及びクレジットは必ずご掲載ください。

◎の末尾の西暦は掲載物の発行年となります。2026年1月以降に掲載される場合は、2026と記載ください。

※画像のトリミングや文字載せは不可。

※二次使用禁止。使用後は速やかに画像データを破棄ください。

※掲載終了後は、掲載出版物を当館広報宛にお送りください。

■開催概要

【会期】2026年2月14日（土）～4月5日（日） *49日間

【会場】企画展示室

【開館時間】10：00～20：00（最終入場は19：30）

【休館日】2月24日（火）、3月9日（月）※3月23日（月）は臨時開館

【観覧料】一般1,500（1,300）円、中高生1,000（800）円、小学生以下無料

※（ ）内は前売りおよび15名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害福祉サービス受給者証、地域相談支援受給者証、特定疾患医療受給者証、特定医療費（指定難病）医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者および介護者1名は5割減額

※会期中に限り本展観覧券でコレクション展にも入場できます。

■前売券

販売期間：12月25日（木）～2月13日（金）

販売所：チケットぴあ（Pコード687-372）、ローソンチケット（Lコード84541）、

セブンチケット（セブン-イレブン）、イープラス（eplus.jp）、好文堂書店、

紀伊國屋書店 長崎店、メトロ書店 長崎本店、くさの書店チトセピア店、長崎県美術館

主 催：長崎県美術館、KTNテレビ長崎

協 賛：株式会社十八親和銀行、株式会社西海建設

後 援：長崎県、長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、

毎日新聞社、読売新聞西部本社、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎

協 力：山下清作品管理事務所

企画協力：ステップ・イースト

長崎県美術館（公益財団法人長崎ミュージアム振興財団）広報担当：奥村、山田、古賀／学芸担当：松久保

〒850-0862 長崎市出島町2番1号 Tel: 095-833-2110 Fax: 095-833-2115

e-mail: info-k@nagasaki-museum.jp https://www.nagasaki-museum.jp